

令和 3年 3月31日

新潟市立乳児院

令和2年度

事業報告書

指定管理者

社会福祉法人 愛宕福社会

理事長 石崎 昂一 印

1. 管理運営業務の実施状況

令和2年度は、コロナ禍ということで、運営上活動の制限があった。前半は養育の中でも外出制限などがあり、家庭生活と同等の豊かな生活の経験というところでは難しい状況があった。また、職員が常時マスクを着用することで、養育者の表情を読み取りながらアタッチメントの形成をする時期に養育者の表情がわからない、人の顔という概念が目しかないものとして認識されてしまうのではないのかという不安感、また、言葉を獲得する時期の子どもにおいては職員の口の動きがみえないことで言葉の発達に大きな影響があるのではないのかという不安にさらされることとなった。感染の流行状況をみながら、養育者がマスクを外す場面をあえて作るなどして、子どもの発達を阻害しないような配慮もおこなってきた。感染防止と子どもの健康な発達の両立に難しさを感じる一年であった。

外部研修などは軒並み中止になったが、社会的養護の研修機関が監修しているDVDを数回借用し、研修に向かず施設内で、子どもの養育やアタッチメント、母子保健、法律などを学ぶ機会を多くもった。コロナ禍で実際の研修には参加することはできなかったが、研修に行った職員でなければ聞けない研修をDVD研修にすることで多くの職員が参加できるというメリットもあった。

入退所に関しては、コロナ禍だということでの制限は行わず、本人やご家族の健康状態などに配慮しながら要請に応じて定員までもしくは定員を超えて一時保護の子どもを受け入れた。また、家庭引き取りや里親への委託に関しては、保護者や里親の家庭の受け入れ準備の状況や時期タイミングを逸してしまわないよう、感染状況流行状況を注意深く見守りながら、途切れることなく家庭引き取りに向けての支援、里親委託の支援を実施し、入所の子ども5人が家庭もしくは里親宅へ移行することができた（4月1日付で2名が退所、停止になっているので7名の退所の支援を行った。）また、新潟市からの一時保護委託の要請が多く、定員を満たしている中では引き受けられない状況も度々あり、本来なら、乳児院での子どものアセスメントが必要な乳幼児、乳児院での支援が有効だと思われる保護者の乳幼児を預かることができないこともあった。一時保護の出入りも多く、里親支援、家庭引き取りへの支援等も都度児童相談所と連携して実施した。

里親支援においては、今年度は、訪問18回、外出支援6回、里親マッチング面会受け入れ50日、里親実習受け入れ35日、里親研修参画8回、里親向け離乳食講座13回、里親ちびっこ広場参加6回（うち1回はクリスマスコンサート開催）等実施した。魚沼までの訪問や外出支援も5回、そのほかZOOMもアフターフォローに活用するなどして、委託後の冬季間の遠方へも近隣への委託と同等に手厚い支援を実施した。

2. 苦情及び要望等の受付状況

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3. 実習生受け入れ状況

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
保育						2		1		1	1		5
社会福祉士							1						1
その他													

前期は新型コロナウイルスの影響で実習受け入れは控えていた。後期は調整ができた学校の受け入れを実施。

4. ボランティア受け入れ状況

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	9	0	11	12	9	17	16	17	17	6	14	20	148

合計受け入れ数 148名（前年200名：52名減）

定期ボランティア アリスの会（3名） にゃんこの会（2名） 個人（1名）

新型コロナウイルスのために、定期ボランティアのうち家族状況からご辞退があった。

定期ボランティアには、体調の確認（2週間前からの検温）と近日当日の体調を確認させていただき受け入れを行った。

コロナ禍の中では、ボランティアについては慎重な受け入れをおこなわざるを得ない。

5. マニュアルの改訂

今年度も見直しを実施し、養育の手順変更があったもの、内容変更があったものについてマニュアルの変更差し替えを実施した。

*差し替えたマニュアル 新入職員マニュアル 備品マニュアル

*新しく作成したマニュアル 散歩マニュアル 感染症マニュアル（新型コロナウイルス感染症）

6. 地域との連携 地域への貢献

① B Pプログラムの継続実施

- *新型コロナウイルスの感染拡大の状況をみながら実施する予定だったが安全の確保が難しいと判断し、実施しなかった。
次年度は、オンラインのBPに取り組む予定。

②離乳食講座

- *新型コロナウイルスの感染拡大の状況をみながら実施する予定だったが、食事場面ということもあり、実施しなかった。
里親対象の1組限定での離乳食講座を実施している。別紙里親支援事業報告参照。

③地域との交流

- *新型コロナウイルスの影響で各公共施設が利用人数の制限などを実施していたり、人との交流をなるべく避けるという行動をとっていたたので、交流がほとんどなかった。
子育て支援センターなどは、利用人数の制限がある時期は、利用しないようにしていた。

当施設は、児童相談所、陸上競技場、家庭裁判所、市役所などが集中している公的施設集中地域であり、民家がないため地域住民の日常を通じた交流は持ちづらいため、毎年積極的に、子育て支援施設にでかけるなどして地域の交流を図っていたが、今年度は積極的な交流を図る機会はあまりなかった。